

# 【小施策評価(令和元年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	経営企画課	
施策	26	都市基盤施設の維持・強化	評価 責任者	小笠原 美千代	内線 697-6230
小施策	26-5	安定給水の確保	評価 シート 作成者	齋藤 剛	内線 697-6231

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
人口減少時代の到来などにより、水需要も長期的に減少することが予測されるなど事業環境は大きく変化している。一方、既存の水道施設は老朽化が進行していることから、その計画的な更新・改築を進めるとともに、災害に強い水道施設を構築していく必要がある。このような現状から、水道施設の再構築はダウンサイジングも視野に入れた水道システム自体の見直しの必要性が高まっている。	災害等のリスクへの対応、環境対策への貢献及び中長期的視点に立った事業運営など、経営環境の変化に即した各種施策を実施することで、市民から信頼され続ける水道事業を推進し、安全でおいしい水の持続的安定供給を目指す。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
水道施設 市民	安全でおいしい水を安定供給している。 安全でおいしい水が安定供給される。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

実績値の推移				実績の評価			
指標		単 位	目指す方向	成果点		成果の要因分析	
<b>指標①</b> 有効率 ※年間配水量に対する年間有効水量の割合を示すもので、水道事業の経営効率性を表す指標の一つ。浄水場から配水した水量のうち、水道事業として有効に使用された水量の割合を示す。この値は高い方が好ましい。 有効率 = (年間有効水量 / 年間配水量) × 100 有効水量 = 有収水量と無収水量との合計。 有収水量 = 水道料金として収入になる水量。 無収水量 = 水道事業上において利用されたが水道料金収入のない水量。(庁舎施設用、排水処理用、工事洗管分、メーター不感分)		%	↗	・有収率 平成30年度94.7%→令和元年度94.8% ※年間配水量(配水池から配水された水量)に対する年間有収水量(1年間の水道料金徴収の対象となった水量)の割合を示すもので、水道施設を通して供給される水量がどの程度収益につながっているかを表している。 ・有効率は非常に高い数値であり、盛岡市の水道管路が健全な状態を維持していることを表している。 ・水道施設を起因とする事故の発生を抑制し、安定供給の信頼性が大幅に向上した。 ・適正な水道施設の更新が維持されており、管路の耐震化率が向上しているほか、浄水場等の電気・機械・計装設備も適切な仕様が採用され、耐震性が向上している。(管路の耐震化率 30年度27.4%→元年度28.1%) ・適切な維持修繕により、不具合が発生する確率を少なくすることで、安全でおいしい水を安定的に供給することができた。	・第三次水道事業基本計画に基づき、経年管対策事業、区画整理関連事業をはじめとした配水管整備を計画的に行ったこと等による。 ・経年管対策事業の管路更新効果により、漏水量が減少していることによる。 ・配水監視システム異常警報、現地パトロール、市民からの通報などで発見された異常個所について、迅速かつ的確な対応により早期の修繕施工を実施することができた。 ・効率的な施設更新或いは維持・修繕を図るため、ローリングを行いながら優先順位を決めて、事業を執り進めることができた。		
当初値 (H25)	94.0	R1目標値	94.5	R6目標値	95.0		
				<b>問題点</b>			
・工事の入札不調、人件費及び資材単価の高騰。 ・将来予測されている人口減少に伴う給水収益の減少に対して、現状を維持した規模の更新は、施設利用率の低下による事業効率の悪化を招く恐れがあることから、水道施設の規模縮小も考慮せざるを得ない。 ・水道施設の老朽化に対応した更新事業量の増加も見込まれることから、計画的な更新・改築を進めるとともに、災害に強い水道施設を構築していく必要がある。				<b>問題の要因分析</b>			
・工事業者の技術者が不足しており、東日本大震災後の沿岸部の工事増加等の影響により人件費及び資材単価が高騰している。 ・高度経済成長期の人口増加及び市街地の拡大等を前提とした施設整備に対し、人口減少化及び節水機器の普及等が進んでいる現在において、施設保有能力と配水量実績とが乖離している。 ・高度経済成長期に整備された水道施設の法定耐用年数が近づき、更新事業に伴う事業費は増加傾向であり、老朽化に伴う漏水等による修繕箇所数も高い水準で推移している。				<b>問題の要因分析</b>			
<b>指標②</b> まちづくり評価アンケート調査「盛岡の水道水を直接飲用している」と答えた市民の割合(直接飲用等)		%	↗	・全ての項目で水質基準を十分に満たしていることから、利用者に対して安全で品質の良い水を供給できた。	・「水安全計画」を作成し、水質管理を行っている。 ・水道GLPを取得・更新することで水質検査体制の整備を図っている。 ※水道GLP(Good Laboratory Practice)は、水道水の水質検査の結果が適正で、水道水の品質管理と検査における技術力が高いことを公益社団法人日本水道協会が認証するもの。		
当初値 (H25)	89	R1目標値	91	R6目標値	93		
				<b>問題点</b>			
・良好な水源涵養機能を持つ森林が減少する可能性がある。				・林業の低迷により、適切な維持管理ができなくなる。			
<b>問題点</b>				<b>問題の要因分析</b>			
<b>指標③</b> 鉛製給水管率		%	↘	・鉛製給水管の残存数が平成30年度末33,440件(30年度末の総数)から836件減少し、鉛製給水管の解消が進んでいる。 ・鉛製給水管布設替え工事費補助金交付制度の利用が26件あった。	・鉛製給水管解消事業第二期実施計画に基づき、継続した広報により補助金交付制度の活用促進を図るとともに、経年管対策事業等の関連事業による鉛製給水管の解消を進めることにより、鉛製給水管率が減少している。		
当初値 (H25)	28.9	R1目標値	25.1	R6目標値	21.3		
				<b>問題点</b>			
・給水装置は個人所有であることから、鉛製給水管の解消が計画的に進まない。 ・補助金交付制度の利用件数が低調傾向である。				・鉛製給水管使用の有無について所有者の認知度が低い。 ・補助金交付制度を利用した場合でも、工事費に所有者負担が生じることから、宅地内の解消が進まない。 ・補助金交付制度の認知度が低い。			
<b>問題点</b>				<b>問題の要因分析</b>			

## 今後の方向性(令和2年度以降)

<b>評価を踏まえた取組の方向性</b> ★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討	★ アセットマネジメントを踏まえて投資の平準化を行いながら、更新による効果が高い高級鉄管、硬質ポリ塩化ビニル管を優先的に更新することで、耐震性の向上と有効率向上による経営基盤強化を図る。 ★ 経年管対策事業を継続的に推進する。 ★ 漏水などの異常個所について、迅速な修繕施工を引き続き実施していくため、修繕工事受託業者との連携をさらに強化していく。 ★ 予算確保の方策や、限られた予算内での効率的な施設整備について検討する。 ☆1 施設更新時に、余剰分を廃止し規模縮小するか、或いは一定の目的のために更新して保有するか判定する。 ☆2 日常点検による不具合の早期発見及び定期点検による計画的な維持修繕とともに、アセットマネジメントを活用した効率的な施設整備を実施する。 ☆1 水源涵養林の適切な維持管理等を行い、諸施策を実施する。 ★ 補助金交付制度の見直し(補助対象の拡大、補助率の引上げ等)を行い、制度の活用促進を図る。 ★ 鉛製給水管の所有者に対する個別周知を実施する。
--	--